



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。  
応援します。農業普及

# みやぎの 5月号

## 農業普及現場

NEWS LETTER No.183 2022.5

紹介内容 (4/1~4/30)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化
  - ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・1
    - 石巻農改：第51回日本農業賞優秀賞を受賞した(株)ぱるファーム大曲が東松島市長を表敬！
    - 美里農改：農業大学校1年生による普及センター訪問が行われました
  - ② 新たな担い手の確保・育成・・・1
    - 亘理農改：2022年度GRAイチゴ営農研修入学式が開催されました
    - 大崎農改：農業士巡回を行いました
    - 大崎農改：大崎4Hクラブ定例会が開催されました。
    - 仙台農改：宮城県農業大学校の学生が普及センターを訪問しました
    - 登米農改：令和4年度宮城県農業大学校入校生の普及センター訪問が行われました
    - 亘理農改：みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました
  - ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・3
    - 仙台農改：水稲乾田直播栽培勉強会を初めて開催しました
    - 石巻農改：水稲乾田直播栽培講習会が開催されました
  - ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・4
    - 大崎農改：JA古川で令和4年産えだまめの栽培講習会が開催されました
    - 登米農改：今年も加工用ばれいしょの栽培が始まりました
    - 亘理農改：ピーマンの栽培講習会が開催されました
    - 仙台農改：JA仙台南管内で、加工用ばれいしょの植付けが初めて行われました
    - 石巻農改：アスパラガス栽培管理勉強会（定植編）の開催
    - 気仙沼農改：JA新みやぎ階上いちご部会による「いちごフェア」が開催されました！
    - 栗原農改：加工用ばれいしょ植付け作業が行われました！
    - 亘理農改：名取のカーネーションの産地表示販売が実施されます
  - ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・6
    - 大崎農改：麦類の種子生産、順調に進んでいます
  - ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・6
    - 石巻農改：麦類現地検討会が開催されました
    - 石巻農改：水稲優良品種決定調査の播種を行いました
    - 石巻農改：「だて正夢」の栽培講習会が開催されました
    - 大崎農改：今年も稲の種子生産が始まりました！

## 2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展 . . . . . 8
- 気仙沼農改：気仙沼大島ウェルカム・ターミナルの農産物直売所研修会を開催しました

## 1. 人材育成・生産基盤の強化

### ①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

#### ○第51回日本農業賞優秀賞を受賞した(株)ばるファーム大曲が東松島市長を表敬!

令和4年4月20日

石巻農業改良普及センター



第51回日本農業賞優秀賞を受賞した(株)ばるファーム大曲が、令和4年4月5日(火)に東松島市の渥美巖市長を表敬訪問しました。日本農業賞は、日本農業の確立をめざして、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展に貢献している農業者や、食や農の担い手として先進的な取り組みをしている集団組織を表彰しています。

(株)ばるファーム大曲は、「地域とともに」、「地域のために」を社訓に、東日本大震災で津波により水田が壊滅的な被害を受けた大曲地区で、4人の農業者が再起に向けて平成24年12月に法人を立ち上げました。現在100haを超える大規模経営に成長し、津波被害から復旧した水田で水稻・大豆・麦の輪作体系に取り組み、また、50aの大型鉄骨ハウスでのミニトマト栽培をはじめ、ほうれんそう、にんにく栽培など複合化を積極的に展開し、周年栽培を実現しています。

特に、社員を積極的に採用し、女性社員が大型農機のオペレーターとして活躍するなど若手育成が計画的になされている点が評価され、地域農業を先導する農業経営として、「集団組織の部」において、見事「優秀賞」を受賞しました。

今後は、JA宮城中央会が主催で5月16日(月)に仙台にて県表彰式が行われる予定です。普及センターでは引き続き地域農業のモデルとして支援していきます。

#### ○農業大学校1年生による普及センター訪問が行われました

令和4年4月22日

美里農業改良普及センター



宮城県農業大学校では、先進農業体験学習の一貫として1年生が出身地の普及センターを訪問し、管内の農業生産の状況や普及センターの業務内容について学ぶことで、今後の体験学習や進路選択、就農後の経営等を考える機会となっています。

本年は4月22日に美里管内出身の5名の学生が普及センターに来所しました。

自己紹介の後、管内の農業生産の概要や農業改良普及センターの業務、プロジェクト課題、新規就農者に対する支援について説明を行いました。

学生達は、生まれ育った地元であるものの地域の農業については知らないことも多く、熱心にメモを取りながら説明を聞いていました。

質疑応答では、「もっと生産を増やした方が良い品目は何か?」などの質問が出され、将来の営農を見越したアドバイスが行われました。

先進農家体験学習は9月から10月に行われ、農業者のもとで農業技術や経営について学ぶ予定で、将来の担い手として活躍できるよう支援していきます。

### ②新たな担い手の確保・育成

#### ○2022年度GRAイチゴ営農研修入学式が開催されました

令和4年4月14日

巨理農業改良普及センター



令和4年4月4日に山元町で「ミガキイチゴ」を生産する株式会社GRAで、「2022年度GRAイチゴ営農研修(GRAイチゴアカデミー)入学式」が開催されました。

今年度の研修生は県外出身の2名で、研修終了後は山元町内での独立自営就農を目指しています。

入学式では、代表取締役の岩佐大輝氏より、イチゴ産地の復興にかける思いと研修生に対する熱い期待が伝えられた。また、来賓として出席した山元町長からは、イチゴ栽培の第一歩を踏み出す研修生に力強いエールが送られました。

ふたりの研修生からは、自己紹介とイチゴ生産での就農を目指す決意表明がありました。

平成28年から始まった同社の研修事業は、今年7期目となり、研修を終了した8名(7経営体)が山元町内で就農し、MIGAKIファーマーとしてイチゴの栽培を行っています。

普及センターでは、法人や町と連携しながら、円滑な就農と経営安定に向けた支援をまいります。

○農業士巡回を行いました  
令和4年4月18日  
大崎農業改良普及センター



宮城県では技術と経営能力に優れた地域の指導的農業者の方々に指導農業士、青年農業士として任命し、普及センターと連携のもと、次代の農業を担っていただく若手農業者等の育成・指導や地域農業の振興に関する助言などの役割を担っていただいています。当大崎管内では現在指導8名、青年7名の計15名の方々に農業士をお願いし、農業大学の学生の研修受け入れや各地域の中心的農業者として地域農業の活性化等幅広い御協力をいただいています。

普及センターでは年度が変わり人事異動もあったことから、令和4年4月12日から14日にかけて管内の農業士の方々の巡回を行いました。

農業士の方々からは、各地域の農業に関する動きや現在抱えている問題点などについてお話を伺い、現在の管内農業の現状等今後の普及活動を展開していく上で、大変有用な情報をいただくことができました。

普及センターでは、今後も農業士の方々とともに若手農業者の育成や管内農業の発展のための活動を行っていきます。

○大崎4Hクラブ定例会が開催されました  
令和4年4月22日  
大崎農業改良普及センター



大崎4Hクラブの令和4年度初の定例会が、令和4年4月13日（水）に大崎合同庁舎で開催され、クラブ員7名が出席しました。

定例会では、6月から行われる親子農業体験や視察研修の予定など、今年度上半期の活動予定が話し合われました。また、12月に行われる農村教育青年会議地区大会の発表等に向けて活動するメンバーが選出されました。今年も新型コロナウイルス感染症の感染対策に努めながら、資質向上と相互交流を図る活動を続けて行く予定です。

普及センターでは、今後も4Hクラブの活動支援を行っていきます。

○宮城県農業大学校の学生が普及センターを訪問しました  
令和4年4月26日  
仙台農業改良普及センター



この春、宮城県農業大学校に入学した仙台普及センター管内出身の学生と県外出身の学生22名が、令和4年4月22日（金）、当普及センターに来られました。

まず、学生から卒業後の進路希望などについて1人ずつ発表があり、その後、みやぎ農業未来塾の一環として、普及センターから、普及センターの主な役割や農業者との関わり、大消費地「仙台」を有する管内の農業概況及び新規就農者支援の概要について、講義を行いました。

これまで農業との関わりがなかったり、農家出身であっても普及センターのことを知らなかったという学生たちは、はじめは緊張していましたが、次第に打ち解け、疑問に思っていることなどを次々と質問し、有意義な情報交換を行うことができました。将来を担う若者たちから農業に対する熱い想いを聞くことができ、今後の成長に期待したいと思います。

また、9月には約1ヶ月間の農業体験学習があり、本日来訪したうちの何名かが管内で実習等を行うこととなりますので、こちらも楽しみです。

普及センターでは今後も、新規就農者含め、地域の担い手の確保・育成に努めていきます

宮城県農業大学校について詳しくは下記URL（アドレス）をご覧ください。

宮城県農業大学校ホームページ：

<https://www.pref.miyagi.jp/site/noudai/>

○令和4年度宮城県農業大学校入校生の普及センター訪問が行われました  
令和4年4月27日  
登米農業改良普及センター



令和4年4月22日、今年度、宮城県農業大学校へ入校した登米市出身学生5人が登米農業改良普及センターを訪問しました。

普及センターからは、管内の農業概況や普及センターの役割、プロジェクト課題の概要の他、新規就農者への支援体制について説明しました。また、登米市4Hクラブ員にも出席いただき、クラブ活動の状況を紹介するとともに、市内への就農や4Hクラブへの加入を勧誘しました。

訪問した学生のほとんどが、卒業後は登米市での就農を希望しており、管内で作付けが増えている品目や作付転換の取組みについてなどの質問がありました。学生は、普及センターの説明に耳を傾けながら熱心にメモをとるなど将来の就農に向けた情報を積極的に収集していました。

### ○みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました

令和4年4月28日

亘理農業改良普及センター



令和4年4月22日（金）に本年度、宮城県農業大学校に入学した当管内等出身の学生10名を対象に、みやぎ農業未来塾「地域農業紹介講座」を開催しました。

講座では、普及センターから管内農業の状況や普及センターの役割等について説明しました。参加した学生は、はじめは緊張していましたが、次第に緊張もほぐれ、傾きながらメモを取る姿が見られました。

また、意見交換では、これから大学校で学びたいことや将来就きたい職業について一人ずつ紹介してもらいました。学生の多くは農産加工分野に興味があるとのことで、卒業後の進路として加工部門のある農業法人や農業関連企業への就職を希望しており、2年間の在学期間に先生や家族と良く話し合い将来を決めて欲しいと思います。今後の成長が楽しみです。

普及センターでは、引き続き、地域の担い手の確保・育成に努めていきます。

### ③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

#### ○水稲乾田直播栽培勉強会を初めて開催しました

令和4年4月22日

仙台農業改良普及センター



近年、管内では、稲作の省力・低コスト化技術である乾田直播栽培が年々増加しています。また、新型コロナウイルス感染拡大の影響による大幅な米価下落を受けて、さらに関心が高まっています。

このため当普及センターでは、今年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題に位置付け、支援をしていくことにしました。その活動の一環として、栽培技術の定着や情報交換の機会をつくることを目的に、「第1回水稲乾田直播栽培勉強会」を開催しました。

まず当普及センターから播種や雑草防除について説明した後、乾田直播栽培に長年取り組んでいる農事組合法人仙台中央アグリサービスの播種作業を見学しました。意見交換では、播種方法や播種時の種籾の予措、除草に関する悩みや疑問等について、活発に意見や質問が交わされ、有意義な時間となりました。

この「水稲乾田直播栽培勉強会」は8月まで、毎月その時期に合わせたテーマで開催を予定しています。すでに乾田直播栽培に取り組んでいる方だけでなく、興味があるという方の参加もお待ちしております。

#### ○水稲乾田直播栽培講習会が開催されました

令和4年4月25日

石巻農業改良普及センター



令和4年4月8日にJAいしのまき情報センターにてJAいしのまき主催の水稲乾田直播栽培講習会が開催されました。管内の生産者が集まり、昨年より多い約40人が参加しました。直播栽培は育苗や田植えを必要としない水稲の低コスト・省力技術として普及しており、特に石巻管内では直播栽培中の乾田直播栽培の割合が94%を占めています。さらに乾田直播栽培における主食用米の割合が大きいことも石巻管内の特徴であり、取組面積が年々伸びている将来有望な栽培技術です。講習会では全農宮城本部から米穀情勢について、石巻農業改良普及センターと古川農業試験場から県内と石巻管内の乾田直播栽培取組状況について、東北農業研究センターから

乾田直播栽培のポイントについて紹介がありました。また、古川農業試験場から初冬直播栽培技術が紹介されました。初冬直播は播種を前倒して初冬に行う栽培方法であり、播種時期を拡大することによって直播栽培面積の更なる拡大が期待できます。

石巻農業改良普及センターでは今後とも乾田直播の栽培技術の定着・確立に向けた支援を行っていきます。

#### ④園芸産地の育成・強化支援

#### ○JA古川で令和4年産えだまめの栽培講習会が開催されました

令和4年4月11日

大崎農業改良普及センター



令和4年4月8日に「JA古川転作えだまめ栽培講習会」が開催され、高品質・安定生産に向けた栽培管理技術や病害虫防除、除草剤の効果的な使用方法などを確認しました。

普及センターからはえだまめで発生する病害虫について、当地域で発生が多い害虫や今後注意が必要な病害の症状や発生条件及び防除方法を説明しました。病害虫防除を徹底することで、高品質なえだまめ生産が期待されます。また、えだまめ作付前やえだまめ後作物の作付前に土壌分析を実施し、適切な施肥管理を行うよう呼びかけました。

JA古川ではえだまめ生産が始まって7年目を迎えます。普及センターでは古川地域がえだまめ産地として発展できるよう引き続き支援を行っていきます。

#### ○今年も加工用ばれいしょの栽培が始まりました

令和4年4月14日

登米農業改良普及センター



登米地域では、昨年、加工用ばれいしょを栽培する生産者で「登米ぼてと組合」が設立され、組織的な取り組みが行われています。今年の加工用ばれいしょ作付け予定面積は約20haとなっており、3月末より順調に播種が進められています。

また、圃場整備後を見据え、高収益作物の候補として

加工用ばれいしょの試験栽培を行う地域の動きも出てきています。

普及センターでは、令和4年度から令和5年度にかけて、加工用ばれいしょの生産者を対象に、栽培技術向上を支援するプロジェクト課題に取り組んでいきます。安定した収量・品質の確保に向けて、課題となりやすい排水対策や雑草防除などが適切に実施できるように、支援してまいります。

#### ○ピーマンの栽培講習会が開催されました

令和4年4月14日

亘理農業改良普及センター



令和4年4月8日に、JAみやぎ亘理南部営農センターにおいて、山元町のピーマン生産者他10名が参加し、栽培講習会が開催されました。

普及センターから、ピーマンの栽培管理のポイントについて技術情報を提供した後、出席者により、育苗後の定植ほ場の準備、病害虫防除などに関して意見交換を行いました。

生産者の中には誘引、整枝などの栽培管理に十分に手をかけられなかった結果、ピーマンの果実に日が当たらず、品質を落としたケースもあったとの課題があることが、出席者の間で共有されました。

普及センターとしては、品質の高いピーマンの生産に向け、引き続き技術的な支援に取り組んでまいります。

#### ○JA仙台管内で、加工用ばれいしょの植付けが初めて行われました

令和4年4月15日

仙台農業改良普及センター



県では、園芸振興を進めるため、水稲から露地園芸への転換誘導と定着に向けた取組に力を入れています。特に、ばれいしょは水田転作の主要品目として、大豆との輪作体系で推進しています。

JA仙台では今年度からカルビーポテト株式会社とばれいしょの契約栽培により、農事組合法人福鶴ファームと四ツ谷作業組合が、初めてばれいしょの栽培に取り組んでいます。福鶴ファームは約1ha、

四ツ谷作業組合は約2haのほ場で栽培を行い、合わせて約90tの収量を目指しています。

令和4年4月11日から12日にかけて、福鶴ファームが仙台市若林区の水田ほ場において、ばれいしょの植付け作業を行いました。植付け作業には、カルビーポテトから借り受けた全自動ポテトカッティングプランターを使用しました。初めての作業でしたが天気にも恵まれ、カルビーポテトの担当者による指導のもと、順調に植付けが行われました。今回、植付けられたばれいしょは、7月下旬～8月上旬に収穫を迎える予定です。

### ○アスパラガス栽培管理勉強会(定植編)の開催 令和4年4月21日 石巻農業改良普及センター



令和4年4月6日(水)に東松島市の株式会社パスカファーム立沼を会場に生産者等32人が参加し、バイオニアエコサイエンス株式会社の松永氏を講師に迎え、アスパラガス栽培管理勉強会(定植編)を開催しました。

アスパラガスは多年生作物で定植後10年位収穫できますが、北海道や長野県等の産地では、病害虫等により作付面積が減少しています。そこで、明治大学とバイオニアエコサイエンスが1年養成株全収穫栽培法「アスパラガス採りっきり栽培®」を平成28年に開発しました。

石巻農業改良普及センターでは、令和2年からJAいしのみき等と連携し、地域農業の活性化のため、高収益作物として注目されるアスパラガスの導入・定着に取り組んでいます。

今回はパスカファーム立沼が事前に施肥や黒マルチ掛けして準備した畑で、講師の松永氏から定植時のポイントについて説明を受けた後、参加者が専用定植器を使って植え穴を開け苗を定植する実習を行いました。苗は「大宝早生」と「ギガデル」の2品種で、昨年12月末にセルトレイ72穴に播種し、電熱温床線や育苗ハウスで約100日育苗したものです。

松永氏は「窒素成分量15kg/10aの基肥とマルチ掛け、地温15℃前後の確保、専用定植器での深植え、活着促進のための灌水、6月頃の植え穴埋め戻し、除草や病害虫防除、追肥など適正管理による大株の養成が翌年の収穫量のカギとなる」と話されました。

JAいしのみきからは、昨年定植した株が4月下旬から収穫が始まるため、標準出荷規格をもとに収穫、選別、結束、箱詰めなど直売所や石巻市場等への出荷方法の指導がありました。

次回のアスパラガス勉強会は、梅雨入り前に支柱立て・病害虫対策を中心に開催する予定です。

### ○JA新みやぎ階上いちご部会による「いちごフェア」が開催されました！

令和4年4月26日  
気仙沼農業改良普及センター



令和4年4月23日、JA新みやぎ階上いちご部会による「気仙沼いちごフェア」が地元直売所「菜果好(なかよし)」で開催されました。このイベントはいちご収穫の最盛期に合わせて毎年開催しており、今年も同部会員の7名が栽培した「とちおとめ」「もういっこ」「かおり野」の3品種計700パックを部会員が店先に立ち販売しました。丹精込めて栽培されたいちごを目当てに、朝から多くの買い物客で賑わいました。

購入に訪れた買い物客は品種による食味の違いに興味を持ち、部会員のアドバイスを直接聞いて次々と買い求めていました。また、毎年このイベントを心待ちにしているという地元消費者の声もありました。同部会の三浦部会長は「気仙沼の皆様、地元産のいちごを食べていただけるのは非常に嬉しい。これからも力を入れて栽培に励みたい」と話していました。

気仙沼農業改良普及センターでは、同部会員の栽培技術向上・収量アップに向けて引き続き支援していきます。

### ○加工用ばれいしょ植付け作業が行われました！

令和4年4月28日  
栗原農業改良普及センター



栗原市金成津久毛(かなりつくも)地区のほ場では、水田転作の一環として数年前から加工用ばれいしょの栽培に取り組んでいます。

今年も、4月12日に84aの植付け作業が行われました。

植付け前に、ほ場の土壌分析を行い、結果に基づき完熟堆肥や基肥を施用したほか、今作では、新たに心土硬砕機「カットブレーカー」施工による排水対策を実施し、さらにアッパーカットロータリーで

砕土をとるなど、生産者からはより高い収量・品質をめざす意欲が感じられました。

普及センターでは、生育調査や他地域との技術交流などを通じて、生産者のばれいしょ生産向上のための取組みを支援していきます。

### ○名取のカーネーションの産地表示販売が実施されます

令和4年4月28日  
亘理農業改良普及センター

母の日に合わせて  
**名取のカーネーションの産地表示販売を実施します!**

期間：令和4年5月6日(金)～5月8日(日)

名取市は、80年以上前からカーネーションの産地を行っている東北一の産地です。今年、生花店の方々の御協力もあり、切り花の販売では珍しい産地名(名取市産)を表示した産地表示販売の取組みを行います。

母の日に贈る特産品であるカーネーションを贈ってみませんか?

産地表示販売の協力店舗について

■名取市内及び産地の以下の店舗

○花の楽園 名取市東山字野原544-1

TEL:022-382-1020

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○小島生花店 名取市東山字野原4丁目8-9

TEL:022-398-3938

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090

○花の楽園 名取市東山字野原4丁目1-19

TEL:022-382-9090



花きの分野において産地名を表示した販売は十分に行われていないため、消費者が購入時に産地を認識しづらい状況にあります。

そうした中、名取市花卉生産組合では、生花店や関係機関と連携を図り、母の日前の需要期にカーネーションの産地表示販売に取り組むことになりました。

実施期間は、令和4年5月6日から5月8日までの3日間とし、シールやポップ、今年2月に作成した産地紹介のしおりを活用して産地名を表示し、消費者に情報発信します。

生産者の顔が見える農産物が求められる中、花の産地表示販売は、地産地消の推進にも有効な手段になると考えられます。

普及センターでは、今後も、名取のカーネーションの産地表示販売の定着、発展に向けた取組を推進していきます。

### ⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

#### ○麦類の種子生産、順調に進んでいます

令和4年4月18日  
大崎農業改良普及センター



大崎普及センター管内では、大崎市古川の1組織がシラネコムギの「種子」＝「たね」を生産してい

ます。令和4年産の麦類種子は、昨年10月末に播種が行われ、長期の根雪や鳥による葉の食害があったものの順調に生育が進んでいます。普及センターでは、優良種子の生産に向けた技術指導と種子審査を行っています。

令和4年4月14日には、公益社団法人みやぎ農業振興公社主催の「麦類特定種子生産ほ巡回(第1回)」が開催されました。巡回には生産者やJ A、古川農業試験場などが出席し、優良種子の生産に向けて耕種概要や生育状況、今後の栽培管理技術などの確認を行いました。普及センターからは、全4回実施した生育調査の結果や今後の生育ステージの予測を説明し、適期の赤かび病防除や追肥を行うように呼びかけました。

普及センターでは優良な麦類種子が生産できるよう引き続き支援してまいります。

### ⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

#### ○麦類現地検討会が開催されました

令和4年4月19日  
石巻業改良普及センター



令和4年4月5日に石巻市桃生地区にてJ Aいしのまき主催の麦類現地検討会が開催されました。7人の生産者が参加し、各法人のほ場を巡回し幼穂の長さを計測して、追肥時期や赤かび防除の時期を予測し、検討を行いました。稲は地力で作る麦は肥料でつくる、と言われるように麦は稲に比べて多量の肥料が必要であり、その収量は施肥量に大きく影響されるため、追肥の量とタイミングは重要な情報になります。また麦類は湿害に遭いやすく、赤かび防除の観点からも排水対策は必要になるため、参加した生産者に注意を呼びかけました。生産者は熱心に麦の生育状態と今後の栽培についての確認をしていました。

同様に4月6日に河北地区と、4月7日に矢本地区にて麦類現地検討会が開催され、管内の麦の生育状況を確認しました。



○水稲優良品種決定調査の播種を行いました  
令和4年4月 21日  
石巻農業改良普及センター



令和4年4月13日に水稲優良品種決定調査現地試験の播種作業を行いました。今年は、中生の「東北235号」と「ひとめぼれ」、晩生の「東北238号」、「東北239号」、「つや姫」の計5系統を播種しました。近年は、地球温暖化に伴い、県内でも夏の高温による玄米品質の低下が度々問題となっています。玄米品質の低下を軽減するには、夏の登熟期間における高温を回避できる晩生品種の作付けが有効です。数年後には、この中から地球温暖化に適応した新しい品種が誕生するかもしれません。石巻普及センター管内では、播種盛期が4月9日となり、今年の水稲栽培が本格化しています。

○「だて正夢」の栽培講習会が開催されました  
令和4年4月 26日  
石巻農業改良普及センター



令和4年4月15日にJAいしのみき主催の水稲品種「だて正夢」の栽培講習会が開催されました。「だて正夢」の生産者や生産法人、JAの営農指導員ら約20人が参加しました。講習会の前半はJA全農みやぎの本郷課長代理より「米穀販売情勢について」と題して、令和3年産米の集荷状況、販売状況等のお話をいただきました。後半は、当普及センター担当者より「だて正夢」の令和3年の作柄や、令和4年に向けた栽培のポイント（①茎数の増加が極めて緩やかなので、栽植密度60～70株/坪を確保すること、②登熟歩合の向上と玄米千粒重の確保するため、追肥N成分で2kg/10aを必ず実施すること等）について説明を行いました。

石巻管内の令和4年の「だて正夢」の作付予定は63.5haです。今年も美味しいみやぎ米を作るために地域一丸となって取り組んでいきます。

○今年も稲の種子生産が始まりました！  
令和4年4月 27日  
大崎農業改良普及センター



大崎農業改良普及センター管内は、県内の水稲種子を生産する産地です。種子場（たねば）と呼ばれる地区では、ササニシキやひとめぼれ、だて正夢など、来年作付けするタネの生産が始まっています。

4月20日に管内の「種子場」の1つである、加美町の中新田水稲採種組合の育苗巡回指導を行いました。この組合では今年から「だて正夢」の種子も生産することになっており、メインの品種の他に酒造好適米「蔵の華」や玄米食向けに人気の「金のいぶき」の種子など多様な品種を生産するため、生産者は皆真剣です。

普及センターでは、管内に4組織ある「種子場」の巡回により、育苗指導や品種の適切な管理など優良種子生産に向けた指導を行っています。

**2. 持続可能な農業・農村の構築**

**①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展**

○気仙沼大島ウェルカム・ターミナルの農産物直売所研修会を開催しました  
令和4年4月 20日  
気仙沼農業改良普及センター



令和4年3月26日、宮城県気仙沼市大島地区にある「気仙沼大島ウェルカム・ターミナル」の農産物直売所を対象に研修会を開催しました。

今回の研修会は、今年度3回目であり、全3回ともアサーティブ&シーエス代表の櫻井万里子氏を講師にお迎えし、開催しました。

「気仙沼大島ウェルカム・ターミナル」には、旬の海産物や農産物が並ぶ販売スペースを中心に、湾を眺めながら寛げるテラス席や飲食店・鮮魚店など5

店舗が集まる民間商業施設「野杜海(のどか)」があり、気仙沼湾を眺めながらお食事などを楽しむことができます。

研修会では、直売所に農産物などを出荷する方が参加し、組織運営や店舗経営のノウハウを学んだり、大島地区の魅力を参加者みんなでピックアップしたり、気仙沼市の観光キャラクター『ホヤぼーや』の活用を検討したりと、盛りだくさんな内容でした。参加者は、大島の魅力をホワイトボードに収まり切れないくらい次々と書き出し、新たな気づきがたくさん得られた研修会となりました。

気仙沼に立ち寄った際には、是非、「気仙沼大島ウェルカム・ターミナル」にお越しください。イベント等の情報は下記フェイスブック等でご確認ください。

気仙沼大島ウェルカム・ターミナル  
<https://www.facebook.com/oshimawt/>

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>  
〒989-1243  
大河原町字南 129-1  
TEL:0224-53-3519

<亘理>  
〒989-2301  
亘理町逢隈中泉字本木9  
TEL:0223-34-1141

<仙台>  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17  
TEL:022-275-8320

<大崎>  
〒989-6117  
大崎市古川旭四丁目1-1  
TEL:0229-91-0727

<美里>  
〒987-0005  
美里町北浦字笹館5  
TEL:0229-32-3115

<栗原>  
〒987-2251  
栗原市築館藤木5-1  
TEL:0228-22-9404

<登米>  
〒987-0511  
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5  
TEL:0220-22-8603

<石巻>  
〒986-0850  
石巻市あゆみ野5-7  
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>  
〒988-0181  
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6  
TEL:0226-25-8068



**\*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.183

発行日:2022年5月25日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp